

高齢者・身障者に安全で優しいオリジナル福祉車両の製作と廃車のマテリアル化で販路拡大

支援機関 公益財団法人えひめ産業振興財団・松前町商工会 支援内容 新事業展開 支援区分 経営革新

株式会社 ヤツヅカ

事業者概要

社名／株式会社 ヤツヅカ
代表者名／代表取締役 八束 和志
業種／自動車の中古部品販売・取付・買取
所在地／伊予郡松前町徳丸233-4
資本金／10,000,000円
設立／昭和54年
従業員数／37名



支援に至る経緯

松前町商工会からの紹介で、自動車リサイクルパーツ製造・販売をしている株式会社ヤツヅカ（以下、「当社」という）が新たに地元整備・販売会社等との差別化策について相談があった。当社は、愛媛県における高齢化社会の到来と地域で欠かせない交通手段となっている自動車を地元高齢者や身体障がい者の身体機能にマッチさせた安心で安全な車として提供するため、適性診断できるドライバーテストステーションを導入して福祉車両分野への進出を図りたい意向があり相談対応を開始した。

支援内容

- (ア) 外部環境となる市場・顧客ニーズ・競合の情報収集←ネット検索とヒアリングにての愛媛県内の高齢化率、高齢者の身体機能（視力・筋力・判断力等の変化）、福祉車両のニーズ（ディーラー・エンドユーザー・医療機関）、競合となるディーラー・自動車整備・販売会社（県外含む）・介護タクシーを製品特徴（仕入先）・技術（溶接・加工）・価格・メンテナンス項目で比較表作成により把握。
- (イ) 当社の強みを仕入先（海外部品含む）・技術ノウハウ・アフター面を踏まえ、作業工程から適性診断～部品調達～製作～アフター体制（適性診断による身体機能のチェック）の流れの構築が可能か検証しながら把握。
- (ウ) ターゲットをこれまでの18～60歳の健常者から県内の60歳以上の高齢者と身体障がい者手帳保持者のうち身体（視覚・聴覚・筋力）と感覚（判断能力）機能低下の者を対象に設定。
- (エ) 新規事業における取組み内容・収支計画（算出根拠）・スケジュール・組織体制を整理。
- (オ) 既存事業の中古車（部品）の買取りのユーザーへのアピール・強化として、愛媛県の優良モデル販売支援事業を公募・採択・活用。
その後、自動車の廃車時対応としてマルチ解体機導入によるパーツ取りとマテリアル化を図っていきたい意向の追加と会社全体の事業の整理を形にしたい要望あり。
- (カ) 経営革新計画書に落とし込み。←平成30年1月に承認予定。

支援の効果

自動車業界を取り巻く外部環境（市場・顧客ニーズ・競合）と自社の強みの整理・把握により、福祉車輻分野進出の計画書作成を通して、具体的な取り組み内容～課題の整理～実現性・収益性の検証を行うことができた。また、会社全体の今後の事業整理（3か年中期）として経営革新計画に落とし込みをすることで社長の思い～社員との情報共有～進捗状況の管理（マイルストーン）の経営ツールとしても活用が可能となった。

今後の展開

従来事業で培ったノウハウを活かして高齢者と車社会の高まりの中で、新たに高齢者と障がい者を対象として福祉車輻の改造・販売に取り組んでいくと共に、車の寿命を迎えた廃車対応として解体～パーツ取り～マテリアル化の流れを整備して、蓄積した技術を十分に生かして積極的に製作・販売・解体までの一貫体制の構築によって経営革新に取組み、大手ECサイト（アマゾン）に福祉部品の追加と自社サイトにてフェイスブック・ブログを連動させて高齢者・身障者本人や家族に向けた運転アシスト装置の機能・使用方法等の情報発信をしたアプローチ、病院施設・カーディーラー等への人脈営業を行い、新たな販路開拓を目指していきたい。

事業者の声

今回の事業は、生活の中でもっとも便利な自動車を高齢者や身体障がい者の方にも安心・安全に運転をしていただきたいという思いで立ち上げました。これからの高齢化社会、地域社会に必要とされる企業を目指します。また、販売から廃車まで一貫した流れを更に向上させ循環型社会にも貢献していきます。



代表取締役 八束 和志

支援者の声

支援者の声（えひめ産業振興財団プロジェクトマネージャー）

先代より事業を引き継ぎ、二代目として自動車業界がメーカー・ディーラー主導として変革を遂げようとする中、取り巻く環境変化にマッチしたビジネス展開をされており、継承することと変化することを持ち合わせた経営者として大きく飛躍をしていってもらうことを期待したいです。



プロジェクトマネージャー
玉井 裕司

支援者の声（松前町商工会経営指導員）

当社は、従来より環境保護や従業員福祉の改善にも取り組まれ、他社の模範となる理念を有する企業です。今後も優れたビジョンを実現し、ますます発展されることを祈念いたします。また、商工会では引き続き、側面より支援させていただきたいと思っております。



経営指導員 大野 紘司